

第7回世界水フォーラム

水問題の解決策議論

170カ国・4万人が参加

第7回世界水フォーラムが12〜17日、韓国・大邱市を中心に開催された。世界約170カ国から約4万1千人が参加し、「私たちの未来への水、安全で豊かな水を全ての人々に」をテーマに約400のテーマセッションを展開、水問題の解決策について幅広く議論した。最終日には、水の安全保障や持続可能性、実現可能な履行メカニズムの構築などに向けた「大邱・慶北宣言」が発表された。次回会合は3年後、ブラジルの首都ブラジリアで開催されることが決まった。

3年に一度開催される世界水フォーラムは、水に関する全てのステークホルダーとして国際機関や各国政府、地方政府、学界、リサーチセンター、民間企業、専門家ネットワーク、事業体やNPOなどが参集し、水を多面的な視点から捉え、将来の水政策を提言する世界最大級の会議。今回は各国の首脳級が参加する政治プロセス、具体的なテーマを掲げて議論されるテーマ別会議、地域性テーマ、科学技術の4つのメインプログラムで展開された。また同時に、70の市民フォーラムや100を超えるサイドイベントが開催され多くの参加者でにぎわった。開会式ではホスト国を

代表し朴槿恵大統領が、最近世界中で起こっている水不足の現状について述べ「水問題の解決は、地球温暖化による水資源への影響など一カ国だけで解決できるものではなく、国際的なつながりで人間の英知を集め、水問題を解決することがますます重要になってきている。次世代のために、今回の第7回世界水フォーラムの成果に期待する」とあいさつした。

首脳級が参加するハイレベル会合では、水の安全保障と持続可能な水循環を築く提言として、インフラへのファイナンス問題、国連ミレニアム開発目標の後継策、国際連携のありかたなど2030年に向けての提言がな

された。太田昭宏国土交通相は、13日の世界水フォーラム閣僚会議、円卓会議、さらには、3年ぶりとなる日中韓水担当大臣会合に出席した。

約400のセッションでは、地球温暖化に適応する水リスクの低減、水とエネルギーと食糧問題、水災害と防災対策、各国の水ガバナンスが取り上げられた。また新しいテーマとして、「水の文化、正義、そして公平さ」が討議され、多様性のある水文化の継承の大切さ、女性と水、新しい水倫理のあり方などに焦点が当てられた。

EXPO展示会場には世界から約300ブースの出展があった。国別に自国のパビリオンを開設

していたのは韓国、日本、アラブ首長国連邦など15カ国。

日本パビリオンのオープニングセレモニーでは、日本水フォーラムの竹村公太郎事務局長が「産・官・学、民間、NGOが総力を挙げて日本の水への取り組みを世界に発信しよう」と力強くあいさつし、国土交通省の宮本健也河川調整官および関係者で、日本パビリオンの成功を祈り日本から持参したダルマに目を入れた(写真)。また14日には在韓韓国日本国大使館から別所浩郎特命全権大使が日本パビリオンを訪れ、各展示ブースを回り説明員を激励した。

世界水フォーラムに連

続して参加している、グローバルウォータ・ジャパンの吉村和就代表は今回のフォーラムについて「特に地球温暖化への適応策、水と災害、国境を跨ぐ国際河川の扱い方、食糧とエネルギーと水な

ど、国際連携のあり方が多く討議された。この結果は国連のミレニアム開発目標の後継策として世界に広げられる。日本パビリオンの印象は、産・官・学、民間が一丸とな

り、水の多様性に合わせ、水と自然の調和を大切にするという印象だ。特に九州勢や中部フォーラムの取り組みなどが評価できる。18年に日本で開催されるIWA世界水

会議の成果につなげてほしい。日本はもっと積極的に海外に情報を発信し、人員を派遣し、アジアの水政策の中心になることを期待している」と語った。

